

* 「長崎子午儀観測一」という観測野帳を発見

アーカイブ室新聞 397号に「彗星(ウ氏)比較星観測野帳発見」という記事を書いた。この観測野帳も「彗星(ウ氏)比較星観測野帳」と同時に図書室からアーカイブ室に持ち込まれたものである。図書室に置かれているよりはアーカイブ室の収蔵品としての方が適当であろうとの配慮である。表紙には「長崎子午儀観測一」(写真1)とある。

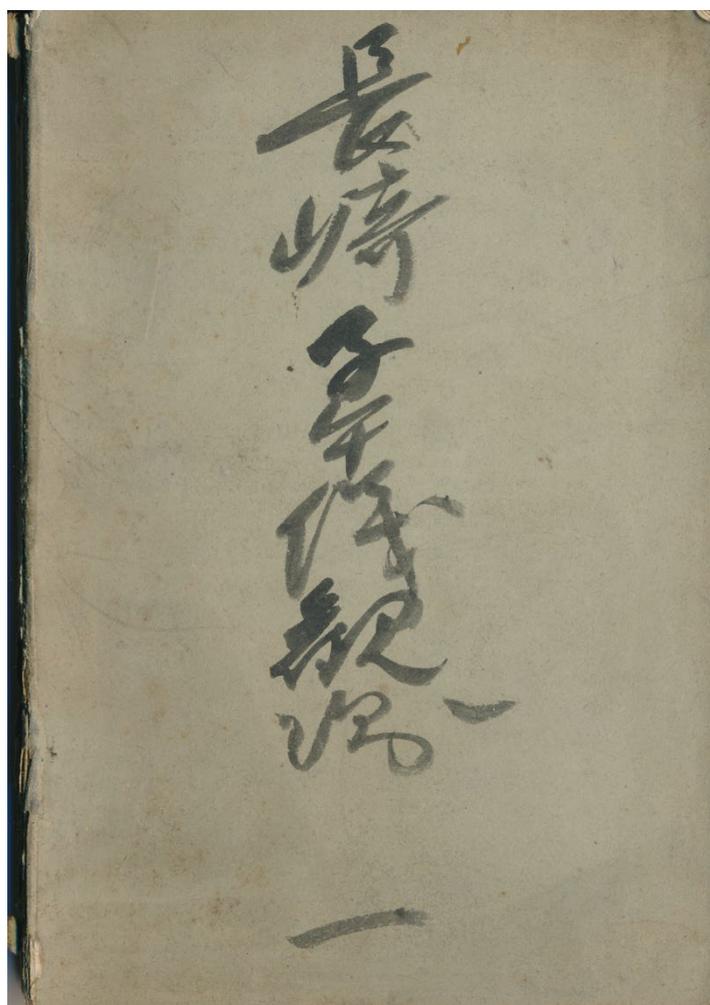


写真1 発見された観測野帳

中をめくってみると、表紙裏に Chronometer, No. 1627, Observer, Midzuhara と書かれており(写真2)、可搬用精密時計としてクロノメーターNo. 1627が使用されたこと、観測者が水原という人であったことが知れる。この水原という人については恐らく水原準三郎という人であろう。東京天文台75周年記念誌に在籍年不詳として名前が記載されている。筆者の調査によれば、水原準三郎(みずはら/じゅんざぶろう)は安政5年(1858年)滋賀県

で生まれ、東京大学星学科を卒業し明治18年（1885年）から東京天文台で暦の編集にあたり、明治41年（1908年）に亡くなっている。東京天文台で暦の仕事をしていたら、子午儀で観測したであろうと思われる。

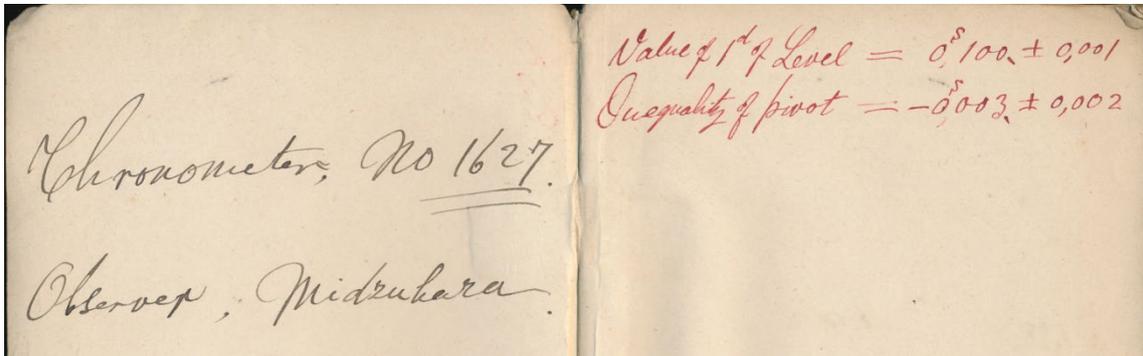


写真2 Observerに水原と書かれた表紙裏

この右ページは水平の精度、ピボット（軸）の精度についての記述と読める。写真3が最初のページで日付は1892年5月21日と読める。

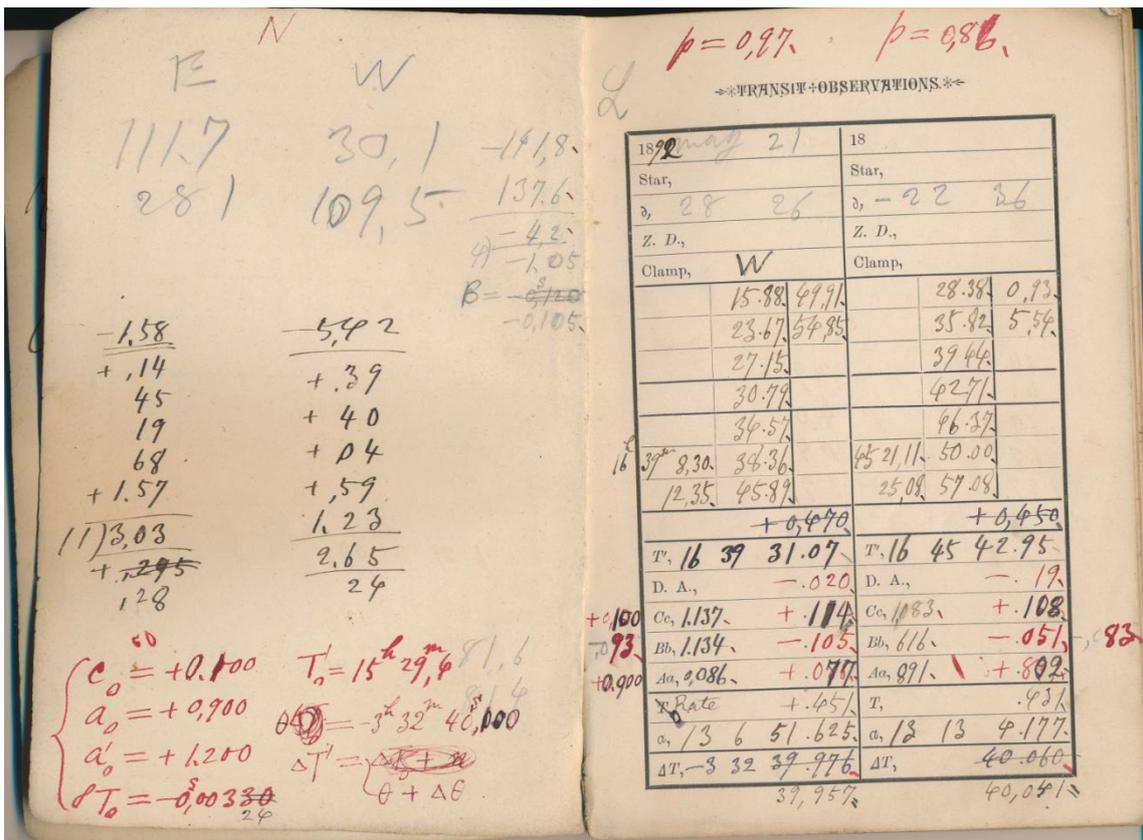


写真3 最初のページ、1892年5月21日の日付が入っている

ページのフォーマットは「彗星（ウ氏）比較星観測野帳」と全く同じでページの一番上に「TRANSIT OBSERVATIONS」と印刷されている。ということはこの観測野帳は文字通り子午儀の観測に用いられたものと思われる。そして、「彗星（ウ氏）比較星観測野帳」も子午儀の

観測野帳であったことが知れる。写真4、5がつづくページである。

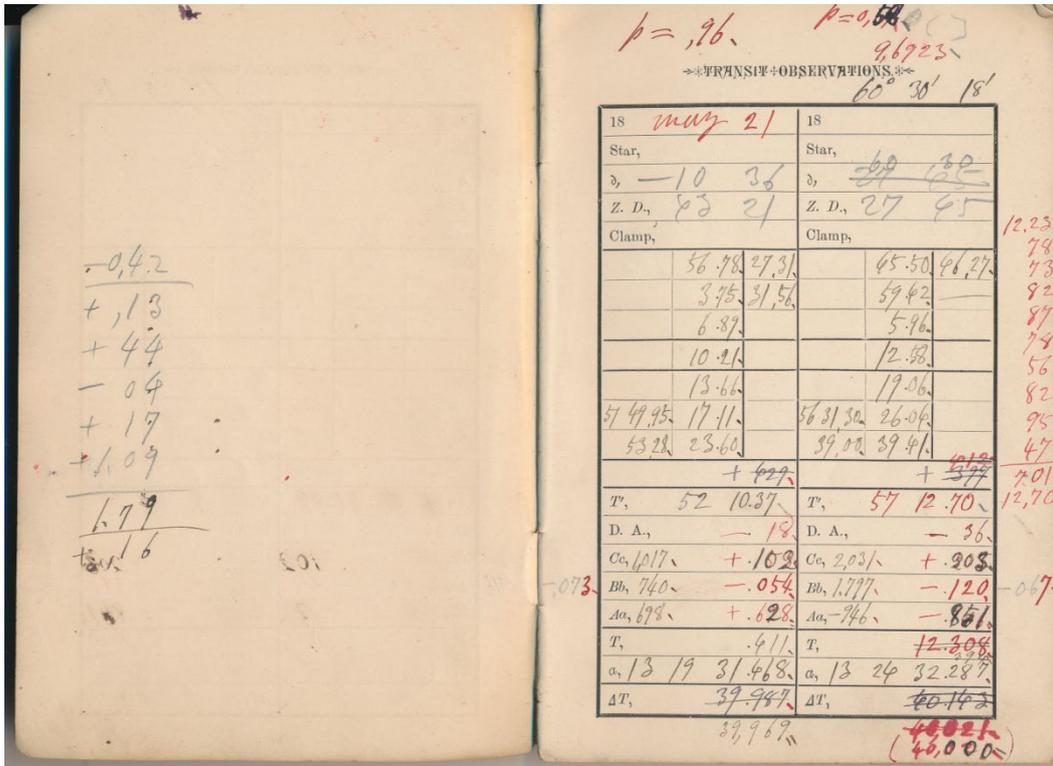


写真4

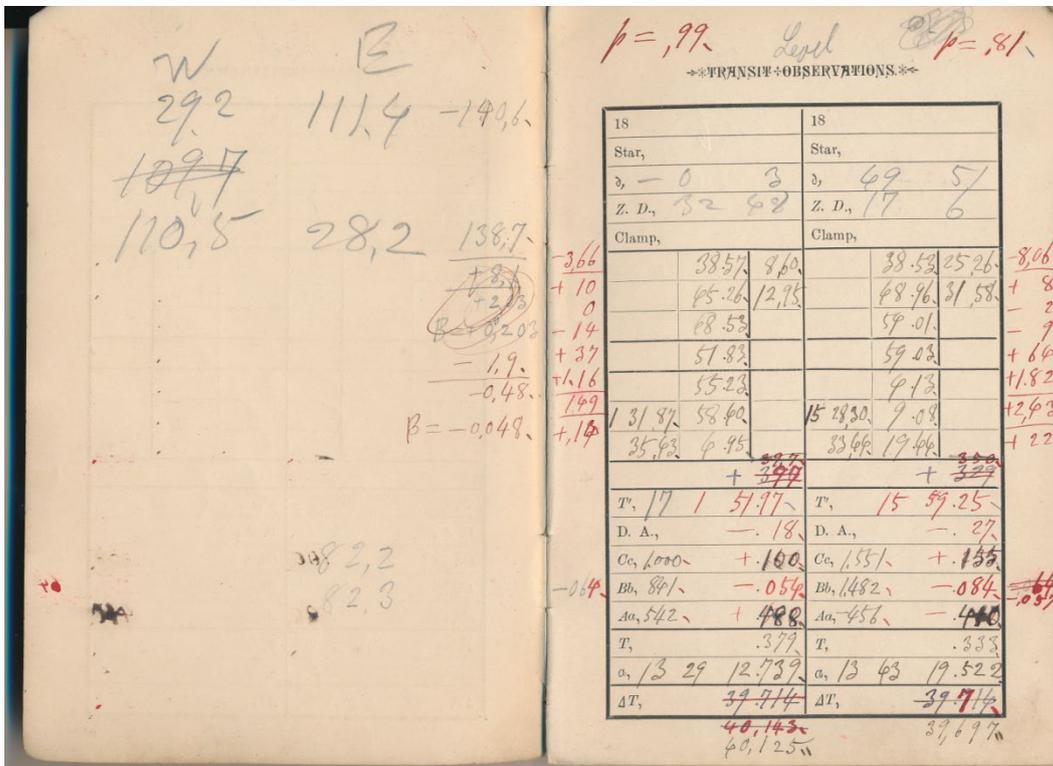


写真5

筆者はこの「長崎子午儀観測」という観測」という野帳のすべてのページをデジタルデ

一タとして取り込んだ。読者の中にこの観測野帳を読み解いてみようと志す人があらわれることを願う次第である。